

関常幸 議会報告

第18号
2010.4

発行責任者
南魚沼市議会議員 関 常幸
南魚沼市浦佐2015番地
TEL 025-777-2245



卒業生「将来の夢」実現のために

先日(3/25)浦佐小学校の卒業式に参加した。我が子の成長を見てそつと目頭を押さえるお母さん。晴れ姿を納めようとビデオ、カメラをまわすお父さん。その卒業生 45 名の「将来の夢」を一読したとき、この子たちの将来の夢が、夢で終ることなく、実現できるようにするのが、学校であり親の責務だ。そして、私ども議員にも責任がある。

その夢とは、**野球の選手5人、ゲーム制作4人、美容師3人、先生3人、バスケット選手3人、イラスト家3人、保育士2人、俳優2人、ペットの美容師2人、デザイナー2人、考古学者、溶接技師、宇宙飛行士、外国に行く、オリンピック選手(陸上)、菓子作り、ホテル経営、ダンサー、料理人、スケートボードショップ、ふれあう仕事、マッサージ師、内科医、税理士、作家、柔道の選手……。**

子どもの将来を思い、幸せになってもらいたいと思わない親などおられない。子は「国の宝」だ。ところが、「猫の目農政」ではないが、国の根幹ともいえる教育方針が猫の目のように変わる。ゆとり教育から、学力重視(10年前に)に戻った。この十年間のつけは重い。国民に混乱をもたらしたただけだ。国は「ゆとり教育」の転換を余儀なくされた原因を精査し示すべきだ。

23年度から小学校で使用される教科書が公表された。ページ数は平均で4割以上増えた。特に算数、理科は7割の増である。ゆとり教育を進めてきた学校現場の混乱もさることながら、授業内容が急激に変われば戸惑うのは子どもたちだ。

子どもたちの「将来の夢」実現のためにも、一日でも早くしっかりとした学力がつく教育行政がのぞまれる。

東京都教育委員会が公立の小・中学校で、月に2回を上限として土曜日に正規の授業を実施できることを通知した。私立との教育格差を解消するための早い決断だ。

地方と都会で教育格差が広がらないように。そして、

子どもたちの「将来の夢」実現ために土曜日授業の検討を願う。 3/25 浦佐小学校卒業式



3月定例議会～22年度一般会計予算299億円(前年比2.8%増)

三月議会は、予算議会とも言われ会期は三月二日～十九日の十八日間と一番長い。三月三日の裸押合大祭が、初めて議会会期中となり気合いがさらに入った……。

執行部の提出案件は予算15件、条例15件、その他13件。二日の初日は、市長の所信表明や委員長報告、二十一年度補正予算。三日正午までが一般質問の通告。四日は社会厚生委員会。八日は産業建設委員会。総務文教委員会は九日。九日、十日、十一日は一般質問。十二日、十五日、十六日、十七日は一般会計当初予算審議。十九日最終日は委員長審査報告・議案審議。

一般質問に21名の議員が登壇し市長と対峙し、市長の政治姿勢や現状の行政課題を問います。予算審議では、多くの議員が質問し定時に終了せず白熱した議会だった。

私は、①ふるさと納税②浦佐地区のFM雪国ラジオの難聴③庁舎整備と大和庁舎利用④学力テストの実施⑤土地改良事業の予算等を質問。

最終日の最後、四人の部長が登壇し退職の挨拶をされる。退職される職員の皆さん本当にご苦労様でした。市民のためにありがとうございました。

一般質問(3月11日)

●中学生の海外派遣事業について

私が初めて海外に行ったのは、昭和49年24歳の時、ヨーロッパに36日間の一人旅でした。

今でも12ヶ国の旅は昨日のように鮮明に覚えている。その欧州旅行が私の人生に大きく影響いたしました。

外国に行き日本を見ると、改めて日本の良さを知ることができました。また逆に日本の弱さをも知りました。これは当たり前ですが、ヨーロッパの各国は陸続きで、子どもたちも週末などには、文化や慣習や通貨の違う他国に容易に行き来している。日本は回りを海で囲まれており、外国に行くとなると大変なことでした。この違いで、欧州や米国から日本がおいて行かれるのではと思った……。

昭和56年、当時大和町農協の職員であった私を「ハンマーで頭をガツーン」となぐり、ショックを与えてくれたのが10日間のアメリカ農業研修でした。サンフランシスコからロサンゼルスまで8つの農場、(高木、内田、国府田、アサノ、トム中島、小向、カヤノ、安武)3施設、2講話(本田、小向)と盛りたくさんの研修で、約1,000キロ走りましたので、毎日5時起床、6時朝食、7時出発でした。

添乗員曰わく、「眠らなくても死なない・眠るのは後でゆっくり眠むれる」移動のバスの中では、次に行く農場主のレクチャやアメリカ農業についての勉強だ。

アメリカの広さや大きさに驚いたのではない。農場主の「経営哲学」に。そして次に学んだのは「太平洋は水たまり」ということで、日本は「地球国日本県」だということでした。この10日間

が今の私の血となり肉となっている。

大和町を中心に百数十名の青年が、この研修に参加し、アメリカの強さやアメリカ農業を知った。そして、我々農業者の挑戦が始まる。今日も夢を求めて挑戦がつづいている。

今14歳という中学生の多感な時期に、外国を訪れ異文化に触れることは、これからの人生に、将来の生き方に、「大きな夢」や「新たなる目標」をあたえてくれる。

2回目の海外派遣が、この3月16日に出発し、23日帰国する。そして3回目の海外派遣が8月18日～25日に予定されており、その選考が先月の2月6日に行なわれた。

この事業は、ご承知の通り「子どもたちの国際交流に役立ててほしいという」今は亡き広田さんの3,000万円の寄付が財源となっている。天国の広田さんに報告する意味からも第一回目に参加した20名の感想や成果を伺う。

そして、この海外派遣事業に、一人でも多く参加させることが、広田さんの遺志に沿うことになる。今は、個人負担(経費総額の3割程度)9万円であるが、個人負担を15万円位に増やせば、今の20名から30名参加する事ができ、10名多く参加できるが見解を伺う。

★市長

報告会では全員が自信を持って報告した。共通して言えることは、世界の広さを実感した。英語が上手に話せなくても通じたこと。異文化に触れ多様な考えがあることを学ぶ。イエス・ノーを明確に。又アメリカに行きたい……。

個人負担を増額する事により、経済負担が増えて、参加できなかったと言うことの無いようにしなくてはならないので、教育委員会と検討する。

レポート

1/17 市消防出初め式



1/19 後援会新年会

2/7 第42回自民党
大和支部定期大会



2/12 大和商工会
行政懇談会

3 月 議 会 概 要

★ 市長所信表明



- 基金事業や雇用創出事業を利用し雇用の拡大を目指す。(144人)
景気対策として、昨年より9億円増の48億円の公共事業を実施する。
- 医師不足の状況は改善されていないが、医師の採用に弾力的・迅速に対応できるように、4月1日から公営企業法の一部適用から全部適用にする。病院事業管理者(院長)を置き権限と責任を明確にする。
- 子どもの成長を社会全体で支援する観点から、中学校修了までの児童約8,500人に、月一人13,000円を支給する。
- 「天地人」以降の観光振興を持続のため「愛プロジェクト推進事業」を展開する。今年度は「戦国エクスポ」の開催や直江兼続公450年祭を予定。合併5周年事業として8月6日に大相撲南魚沼場所を開催する。
- 行政の効率化を図るため、大和庁舎の福祉保健部を10月から本庁舎に移動する。JA六日町支店の2、3階、保険センターを庁舎化する。

★ 平成22年度一般会計予算299億円可決

景気の低迷で市税も前年より落ち込む中、299億円の予算を組み、雇用の確保・景気対策を柱とした積極型予算だ。なお財政の健全化に向けて着実に進んでいることは評価する。2名の反対があり全会一致とならなかった。

★ 平成23年4月開園の「浦佐認定子ども園」は医療法人社団「萌気会」が運営

2者(金城幼稚園と萌気会)申請があり審査会、議会で審議される。議会では審査会のメンバーや審査方法、選定の決定理由等に多くの質問がでる。全会一致で「萌気会」に決定する。指定管理者として10年間運営することとなった。

★ 光伝送路(光ファイバー)全市に敷設～高速インターネットの利用

六日町・塩沢地区には光ファイバーが敷設されており、通信(インターネット)の地域間格差が生じていたが、21年度地域情報通信基盤整備推進交付金事業を活用して、光ファイバーによる高速インターネット網を整備することになる。(NTT東日本が請け負う、契約金額732,900千円)

★ 豪雪地域「クリーンエネルギー活用」モデル住宅建設

総務省の委託で、クリーンエネルギーを敷設したモデルハウス(40坪)を建築し、市民(公募)から住んでもらう。環境・地盤沈下・豪雪対策、地域資源活用等を調査する。

★ (株)ウオロク、六日町(市民会館駐車場用地)に出店を申し込む

市民会館の利用に不便なく、市街地の活性化になるようであれば、前向きに検討すべしと思う。(議会開会中に出店申込書のペーパーが配布される)



2/14 白山神社(春祭り)
「子どもサンヨ」

3/10 第34回全日本マスターズスキー選手権南魚沼大会(全国から800名の選手が集う)



3/12 山の神様
「十二講」を祭る

3/14 雪山ツアー
(33番観音様→高山→尾根→浦佐城に)



★ 管内調査～総務文教委員会 (1月29日)

午前市内で初となる小中学校連携の五十沢小学校建設(23年開校)現場と給食センター建設の現地調査を行ない昼食は生徒と同じ給食をいただく。

「食」と「学び」は子どもたちの健全な成長と確かな学力の向上に欠かせない。そのための施設を業者の皆さんが愛を込めて作業していた様子を調査した。業者の皆さん寒い中ご苦労様です。



建築中の五十沢小体育館

★ 政務調査～南魚みらいクラブ (2月25～26日)



衆議院本会議を傍聴した後、総務省の鈴木行政第二係長より「地方議会の現状と課題」、内閣府の田中主査より「地域主権戦略の主な経緯」を学習する。

地方の時代が叫ばれて久しいが、現政権下でその歩が加速している。この夏には「地域主権戦略大綱」が決り、23年度から段階的に地方に権限が移譲される。例えば、道路の構造基準、保育所等の福祉施設の基準、公立学校の学級編成基準……。

★ アメリカ農業事情(農業者再訪の旅)研修(2/17～24)

農業青年の「アメリカ農業研修」に触発され、我々OBも再度行こうと話しが出たのが3年前。出発の前の晩はワクワクして眠れなかった。



3年前に100畝から10畝の有機栽培農業に転換した。デービッド氏は、有機農法は世界が小さくなったので統一されなければと話す。直売販売は5畝で4千万円の売り上げ。5畝は市場販売1千万円。



10畝に15～18種類作付け。会員は400人、週に一回地域の代表に配達する。3ヶ月毎に3万円いただく。売り上げは、農場直売所で4割、メンバーで4割、市場で2割。会員には週一回農場の内容を連絡する。



「知野農場」24畝 全て庭先販売。年間9億円の売り上げ。「農業は神様に次ぐ職業」だと言った知野さん!

★ 3月3日裸押し合い大祭

3月4日、大祭が終り午後より「多聞青年団総会」が開催される。全青年団130名が見守る中、団長の法被が次期団長に引き継がれる。石田団長が全団員に問う。「この法被、山口昭に引き継ぐが良いか!」と「オー」と堂内を揺るがす雄叫びに続いて拍手が沸き起こった。ここに第59代団長が誕生した。

前団長に感謝し「馬」に乗せる団員 →



(日・月・祝は休館)

● お知らせ
浦佐北越銀行裏の「ぐるーぶくらぶ」で和田芳山先生の書展「愛と絆」を開催中。(3/31、4/15)
編集後記
皆さん、紙面が手作りになり2回目のお届けです。見づらく、読みにくくないですか? 毘沙門通りの歩道が「カラー舗装」になり、お年寄りの皆さまから安心して歩けるといふ嬉しい声を聞きました。天気の良い日は、毘沙門様にお参りに行きましょう。